



## 1 常磐大高校生、7人入学!



後列左から 水津知大さん、西丸翔さん、市村駿太さん、川井統真さん  
前列左から 滝本陽姫さん、水地穂吏さん、加藤陽向さん

本年度の学校別入学者数(本紙第1号)を見ると、最多入学者は常磐大学高等学校の7人となります。その内5人は高校の先生方の紹介があったそうです。入学式で新入生を代表して宣誓した市村駿太さんは「ITに興味があり、IT関連の仕事がしたい」と入学の意欲を示していました。また、水津知大さんは「IT技術を活かして地域に貢献したい」、滝本陽姫さんは「短期で資格が取れて、自分が学びたいロボット工学も学べるから」と高い目標を持って入学しています。

## 2 母校の恩師に感謝!

### 県立勝田高等学校 勝田中等教育学校

昨年度から、本校との連携事業を進めています。下山田芳子校長は「高大連携で生徒の可能性を広げたい」と話されていました。追田豊弘進路指導主事は「IT短大への希望者もいます」と笑顔で話されていました。



下山田芳子校長、追田豊弘進路指導主事

### 県立勝田工業高等学校

毎年、多くの卒業生が入学しています。浜田健志校長は「卒業生が応用情報技術者試験に合格し、素晴らしい」と笑顔で話されていました。また、清水裕美教頭は「いばらきP-TECHを生徒に活かしていきたい」と話されました。



浜田健志校長、清水裕美教頭

## 3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

<記事トレ>日経新聞(2025年4月14日)  
共生社会へ新技術実験  
AIスーツケースの浅川さんに聞く

### ●水地穂吏さん(常磐大高卒)

◇要約: AIを搭載し、視覚に障害のある人に道を音声案内するスーツケース型ロボットを開発。内蔵のカメラやセンサーで得られるデータをもとに、障害物の位置や歩行者との距離を感知、最適な移動ルートを案内できるのが特徴。

◇感想: 自分の体験から浮かんだアイデアから、街を歩きにくいと悩む視覚障害者のためにAIスーツケースを開発した。アイデアを形にする実践力が素晴らしい。

どんなシステムでも利用してくれる人のことを考えることが重要だと思った。

### ●松崎俊祐さん(勝田工高卒)

◇感想: 浅川館長が開発したAIスーツケースが世界中に普及されれば、世界中の視覚障害者が安全に暮らすことが出来る世界になりそうだ。また、視覚に障害がある人もプログラミングを学べる職業訓練センターがあることも初めて知った。

### ●藤田彪吾さん(土浦工高卒)

◇感想: 目が見えない人ならではの視点、発想に驚かされた。オムロンなど日本のIT企業なども協力したAI技術というのも気になる。AIはまだまだ発展途上であるため、自分でも活用できるAIを探し、行動に移せるような技術者になりたい。

### ●中村太紀さん(多賀高卒)

◇感想: 自分が視力を失って感じた不便さを元に、他の同じような経験をした人々のために、AIを活用したロボットを開発している。人のためにIT技術を利用しているところも見習いたいと感じた。

### ●山中咲季さん(多賀高卒)

◇感想: 共生社会実現のためのAIの様々な利用方法を知ることが出来た。初めてAIスーツケースを知って、AIの活用方法が沢山あると感じた。そのため、AI技術を学び自分なりのAI活用方法を考えたい。

